

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年9月27日

## 【評価実施概要】

|               |                                    |
|---------------|------------------------------------|
| 事業所番号         | 4072300421                         |
| 法人名           | 有限会社 ケアビット                         |
| 事業所名          | グループホーム 陽だまりの家                     |
| 所在地<br>(電話番号) | 福岡県八女市高塚212番地<br>(電話) 0943-30-2022 |
| 評価機関名         | 社団法人 福岡県介護福祉士会                     |
| 所在地           | 福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F        |
| 訪問調査日         | 平成19年8月25日                         |

## 【情報提供票より】(平成19年7月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |              |        |                         |
|-------|--------------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 平成 16年 1月 6日 |        |                         |
| ユニット数 | 2 ユニット       | 利用定員数計 | 18 人                    |
| 職員数   | 18 人         | 常勤     | 10人, 非常勤 8人, 常勤換算 15.6人 |

### (2) 建物概要

|      |  |  |
|------|--|--|
| 建物形態 | 併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築 |
| 建物構造 | 木造   |  |
|      | 1 階建ての   | 1 階 ~ 1 階部分  |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |  |  |  |
|---------------------|--|--|--|
| 家賃(平均月額)            | 30,000 円   | その他の経費   | 有  |
| 敷金                  | 有( 円)  | <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> |  |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | <input checked="" type="radio"/> 有 100,000 円 <input type="radio"/> 無 | 有りの場合<br>償却の有無   | 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> |
| 食材料費                | 朝食   | 200 円  | 昼食 300 円   |
|                     | 夕食   | 400 円  | おやつ 100 円  |
|                     | または1日当たり 円   |  |  |

### (4) 利用者の概要 (平成19年7月2日25現在)

|       |           |      |      |    |       |
|-------|-----------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 18 名      | 男性   | 5 名  | 女性 | 13 名  |
| 要介護1  | 4 名       | 要介護2 | 4 名  |    |       |
| 要介護3  | 5 名       | 要介護4 | 3 名  |    |       |
| 要介護5  | 2 名       | 要支援2 | 0 名  |    |       |
| 年齢    | 平均 83.4 歳 | 最低   | 59 歳 | 最高 | 100 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                                      |
|---------|--------------------------------------|
| 協力医療機関名 | 木附内科医院・今里整形外科・公立八女総合病院・秋山歯科・大石歯科(訪問) |
|---------|--------------------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者は、身体障害者施設の運営をしていく中で老人介護の必要性を感じ3年前前にグループホームを立ち上げ、地域に密着したサービスを目指し有料老人ホーム、小規模他多機能型居宅介護を現在建設中である。「尊厳・安心・感謝・共生」をキーワードとしたホームの理念に基づき、本人・家族の思いを日々の介護の中で確認し利用者本位のきめ細やかなサービスが行われている。広々とした庭には季節の草花や利用者が野菜を育てており、草花を使った葉や栽培された野菜が食卓に彩りを添えている。また、庭の隅には利用者が自宅で飼っていた犬がホームの一員として飼育されており、アットホームなグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

|       |  |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価における改善課題について外部評価改善計画を作成し、改善が行われている。運営理念の共有に関しては、スタッフルームやフロアに掲示し、日々の生活の中で実践に向け取り組まれている。地域との交流も新聞を発行したり、交流サロンに出かけたりと積極的な取り組みが出来ている。</p>  |
|       | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の調査に関しては、管理者が記入した後、職員に提示し意見を求め追加・修正を行っている。</p>   |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、民生委員・市役所職員・町内会長・家族代表・利用者代表の参加で開催している。ホームの事業案内や家族、地域からの要望・地域行事の紹介など、話し合いを行い検討してサービス向上に取り組んでいる。地域からの要望があり「陽だまりの家通信」を発行するようになった。市役所に、運営推進会議の議事録を提出しホームの現状を伝えサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>                    |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>2ヶ月毎に「陽だまり新聞」を発行し暮らしぶり等を報告したり、家族の面会時には、随時報告を行っている。玄関にアンケート用紙や意見箱を設置すると共に、面会時に積極的に話しかけ意見や不満などを聞くように努力している。面会が少ない方には2ヶ月毎に電話や手紙でお伺いしている。連絡帳が欲しいとの要望には、連絡帳を作成して家族との連絡に利用している。また運営推進会議の場を利用し、家族の意見を聞き改善に役立っている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>敬老会や小学校の運動会に参加されている。地区の公民館で行われているふれあいサロンには毎月出かけ交流を図っている。年4回「陽だまりの家通信」を発行し地域の方に回覧している。5月にはバザーを行い、利用者と一緒に作成した小物や、ご家族が持ち寄った不用品の販売を行い大盛況だった。</p>  |

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------------|----|---|--|------|---|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |   |  |      |   |
| 1. 理念と共有              |    |   |  |      |   |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 「尊厳・安心・感謝・共生」をキーワードに、その人らしい生活を自分の意思で送ることを支援し、安心と感謝に満ちた共にくらす家をめざしている。地域との関係性が重視されている中、理念は開設当初のままとなっている。                                 | ○    | グループホームの基本理念にある「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となるよう、今一度理念の見直しを期待する。 |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | スタッフルームやフロアーに掲示し、日々の生活の中で実践に向け取り組まれている。  |      |   |
| 2. 地域との支えあい           |    |   |  |      |   |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 敬老会や小学校の運動会に参加している。地区の公民館で行われているふれあいサロンに毎月出かけ交流を図っている。年4回「陽だまりの家通信」を発行し、地域の方に回覧している。5月にはバザーを行い利用者と一緒に作成した小物や、ご家族が持ち寄った不用品の販売を行い大盛況だった。 |      |   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |   |  |      |   |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 前回の評価を受けて外部評価改善計画を作成し、改善が行われている。今回の調査に関しては、管理者が記入した後、職員に提示し意見を求め追加・修正を行っている。   |      |   |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、民生委員・市役所職員・町内会長・家族代表・利用者代表の参加で開催されている。ホームの事業案内や家族、地域からの要望・地域行事の紹介などを話し合い、検討して、サービス向上に取り組んでいる。地域からの要望があり「陽だまりの家通信」を発行するようになった。   |      |   |
| 6                     | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                  | 運営推進会議の議事録を提出しホームの現状を伝えている。介護保険の各種サービスや障害者施策・生活保護関係など随時相談に出かけている。  |      |   |

| 外部                     | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                       |
|------------------------|----|---|--|------|--|
| 7                      | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している                                     | 現在利用している人はいない。成年後見制度や地域権利擁護事業の研修に参加し、勉強会が行われ家族向けの新聞でも制度の紹介を行っているが、すべての職員の理解までには至っていない。   | ○    | 対応が必要と思われる利用者がある場合、または家族から質問があった時など、職員がいつでも説明出来るようにパンフレット等を準備し対応してほしい。 |
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |    |   |  |      |  |
| 8                      | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている   | 2ヶ月毎に「陽だまり新聞」を発行し暮らしぶり等を報告したり、家族の面会時には、随時報告を行っている。面会が少ない方には2ヶ月ごとに電話や手紙で報告をおこなっている。金銭管理に関しても面会時に出納帳の確認を行い家族・職員のサインがある。  |      |  |
| 9                      | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 玄関にアンケート用紙や意見箱を設置すると共に、面会時に積極的に話しかけ、意見や不満などを聞くように努力している。また運営推進会議の場を利用し、家族の意見を聞き改善に役立てている。面会が少ない方には2ヶ月毎に電話や手紙で確認を取るようになっている。連絡帳がほしいとの要望があったので、連絡帳を準備し家族との連絡に利用している。 |      |  |
| 10                     | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている                                | 職員へのヒアリングなどで、不安、不満の解消を行い異動や離職を最小限に抑えている。結婚による退職が多く、利用者と共に祝うことでショックを和らげている。   |      |  |
| <b>5. 人材の育成と支援</b>     |    |   |  |      |  |
| 11                     | 19 | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員採用にあたっては、性別・年齢によって採用対象から除外していない。20代から60代までの職員を採用している。職員は個々の趣味や能力(習字・小物作り等)を発揮できる場が与えられ、生き生きと働いている。利用者との相性を考慮し担当を決めている。   |      |  |
| 12                     | 20 | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる  | ホーム長が、身体拘束等の研修に参加しホーム内での会議等を利用して勉強会が行われ、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。  |      |  |
| 13                     | 21 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている   | 県・市町村主催の研修や事業者協議会主催の研修に参加している。ホームで月に1回全体会議があり、必要に応じて伝達研修を行っている。  |      |  |

| 外部   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|--|----|---|--|------|--|
| 14   | 22 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>      | <p>グループホーム部会へ加入し、研修や見学等で他同業者との交流の機会があり、様々な情報を得ることで、サービスの質の向上への取り組みが出来る。</p>  |      |  |
| <p><b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p> |    |   |  |      |  |
| 15   | 28 | <p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>数日間の体験入居や昼間だけの利用など、ホームに馴染んでもらい本人や家族が納得し、安心してサービスの利用が出来るような体制が出来ている。</p>   |      |  |
| <p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>                                     |    |   |  |      |  |
| 16   | 29 | <p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>                       | <p>利用者の得意な料理や裁縫、日本古来の行事や野菜の作り方など教えていただいている。職員と一緒に過ごす事により喜怒哀楽を共にし、人生の先輩としての利用者から学んだり、支え合う関係が築けている。</p>  |      |  |
| <p><b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>       |    |   |  |      |  |
| 17   | 35 | <p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>   | <p>日々の介護の中で問いかけ、本人の意向を確認している。返事が返ってこなくても、表情や仕草で本人の思いや願いを汲み取るよう心がけている。</p>  |      |  |
| <p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>                                |    |   |  |      |  |
| 18   | 38 | <p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>        | <p>月1回のユニット会議で、本人の希望や現場職員の気づきや意見を取り入れた介護計画を作成している。面会に来れない家族には、援助目標や具体的な援助内容を記載した書類を郵送し、要望や意見を頂くよう取り組み始めた。しかし残念なことに、介護サービス計画書に利用者や家族の意向が記載されていない。</p> | ○    | <p>全ての家族から介護に対する意向を聴きだすよう取り組んでおり、頂いた意見や要望については、介護サービス計画書に記入し援助に繋げて欲しい。利用者や家族の発した言葉をそのまま記載すればより解りやすい。</p> |
| 19   | 39 | <p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>    | <p>3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行なっている。退院時や食欲低下が続いた場合など状態が変化した場合は、その都度話し合い、介護計画を見直し作成している。業務日誌に介護計画の内容が記載され、毎日評価を行ない変化がないか確認できるようになっている。</p>                       |      |  |

| 外部                                  | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>            |    |   |   |      |                                  |
| 20                                  | 41 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 移動や食事、排泄において介助が必要な利用者であったが、孫の結婚式に出席したい、また家族も出席させたいと思いを叶えるため、職員が終始付き添い結婚披露宴に共に参列するなど、特別な外出支援をしている。                                 |      |                                  |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>  |    |   |   |      |                                  |
| 21                                  | 45 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 医療機関については、契約時に相談し決めるようにしている。協力医療機関から2週間に1回往診が受けられていることで、協力医へ変更した利用者もいるが、十分説明し希望の上での変更である。また遠方の専門医へ通院介助を行なうなど、適切な医療が受けられるよう支援している。 |      |                                  |
| 22                                  | 49 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時に本人や家族の意向を確認している。昨年は全利用者家族に、重度化した場合の家族の意向調査のアンケートをとるなど取り組んでいる。施設で出来ること出来ないことを明確にし、重度化した場合も医療との連携を図りながら、何度も方向性を確認し合い方針を共有している。  |      |                                  |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>    |    |   |   |      |                                  |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>              |    |   |   |      |                                  |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                  |    |   |   |      |                                  |
| 23                                  | 52 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 管理者及び職員は、運営理念のひとつである「尊厳」を常に念頭に置き介護にあたっている。個人の記録はファイルにして事務所にきちんと保管されており、職員のみが閲覧できるようにしている。   |      |                                  |
| 24                                  | 54 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 例えば、スーパーにコーヒー牛乳を買いに行きたいと希望する利用者には、一緒に車で買いに行くなど、可能な限りその時々希望に添うよう支援している。  |      |                                  |
| <b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |   |   |      |                                  |
| 25                                  | 56 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている                | 調査日には車椅子の利用者が、一心に皆のおかずを小鉢につぎ分けている姿があった。また、順番に食前の挨拶をお願いするなど、それぞれに役割や出番作りに取り組んでいる。利用者と職員が同じ食卓を囲むことで、より一層楽しい時間となっている。                |      |                                  |

| 外部                            | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-------------------------------|----|---|---|------|---|
| 26                            | 59 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している                             | 入浴は、週に3回のペースで入っていたくよう支援している。職員の勤務の都合上、朝の10時から夕方4時までの間に入浴をお願いしているが、それ以外の時間でも希望があれば出来る限り希望に添うように取り組んでいる。夜間の入浴希望時には、足浴や清拭など行い、満足していただけるようにしている。                      |      |   |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |   |   |      |   |
| 27                            | 61 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている                           | 菜園でオクラを育てている利用者は、日に何度も庭に出て収穫の時期を楽しんでいる。また育てたオクラが食卓にのり、皆を喜ばせており本人の生きがいとなっている。次は何を植えようかとみんなで考え次に繋いでいる。また、以前自宅で飼っていた犬と一緒に入居した利用者は、体調の良い日は犬の世話を楽しみにしている。              |      |   |
| 28                            | 63 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している   | ユニット毎にドライブや外食に行くなど、皆で外出する計画を立て実行している。また洋服や肌着や嗜好品を一緒に買いに行くなど個別に支援している。天気の良い日は朝夕施設の周辺を散歩するなど積極的に外に出かけるよう支援している。   |      |   |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |   |   |      |   |
| 29                            | 68 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる                                    | 玄関も扉も夜間以外は、オープンにし鍵をかけていない。夜勤者が夜の9時ごろ鍵をかけ戸締りをしている。朝は6時には鍵を開けるようにしているため自由に外出できる環境である。職員は常に利用者の動きを見守り、危険の無いように介護にあたっている。   |      |   |
| 30                            | 73 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている                                | 昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。年に1回は消防署の協力を得た訓練である。更に2~3ヶ月毎に消火・通報・避難の部分訓練を実施している。利用者と家族が安心して生活できるよう取り組んでいるが、地域への取り組みはまだ見られない。  | ○    | 地域向けの広報誌「陽だまりの家通信」を利用し、地域と合同避難訓練の実現に向け、参加の呼びかけをするなど取り組まれない。定期的に施設側からいろいろな発信をしていくことで、より一層地域に根ざしたホームを目指すよう取り組みに期待したい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援    |    |   |   |      |   |
| 31                            | 79 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 栄養士がバランスの良い献立作りを心がけている。疾病の為にカロリー制限のある利用者には、個別に調理している。お粥や刻み、ミキサー食の対応も可能である。また水分摂取を徹底する為、チェック表を作成することで、水分補給への職員の意識付けを図っている。   |      |   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり       |    |   |   |      |   |
| (1) 居心地のよい環境づくり               |    |   |   |      |   |
| 32                            | 83 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下は広めに作られており、リビングの窓は大きく外の景色が美しい。庭には実のなる木も植えられており、りんごや花梨の実で季節を感じる事が出来る。リビングにはソファや畳の部屋もあり、利用者が思い思いにくつろげる空間となっている。廊下には押し花の額などが展示され、食堂には手作りのカレンダーを飾るなど温かみのある空間となっている。 |      |   |

| 外部 | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|----|----|--|--|------|----------------------------------|
| 33 | 85 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッド以外は、自宅で使っていたものを持ち込んで生活している。長年使っていた座椅子やダンスを今も大事に使っている利用者も数多く居られた。またご本人の好きな絵や作品、写真を壁に飾ったり、本人や家族と話し合いながら模様替えをするなど工夫している。 |      |                                  |